

# プレスリリース

## 小清水漸「垂線」展

2021年3月16日（火） - 4月17日（土）

東京画廊+BTAP | 東京

〒104-0061 東京都中央区銀座 8-10-5 第4 秀和ビル 7階

TEL: 03-3571-1808 / FAX: 03-3571-7689

協力：森田花 「垂線～生成の起点から」

この度、東京画廊+BTAP では小清水漸個展「垂線」を開催いたします。本展には、作曲家の森田花氏を迎え、造形と音楽によるパフォーマンスを行います。（\*）

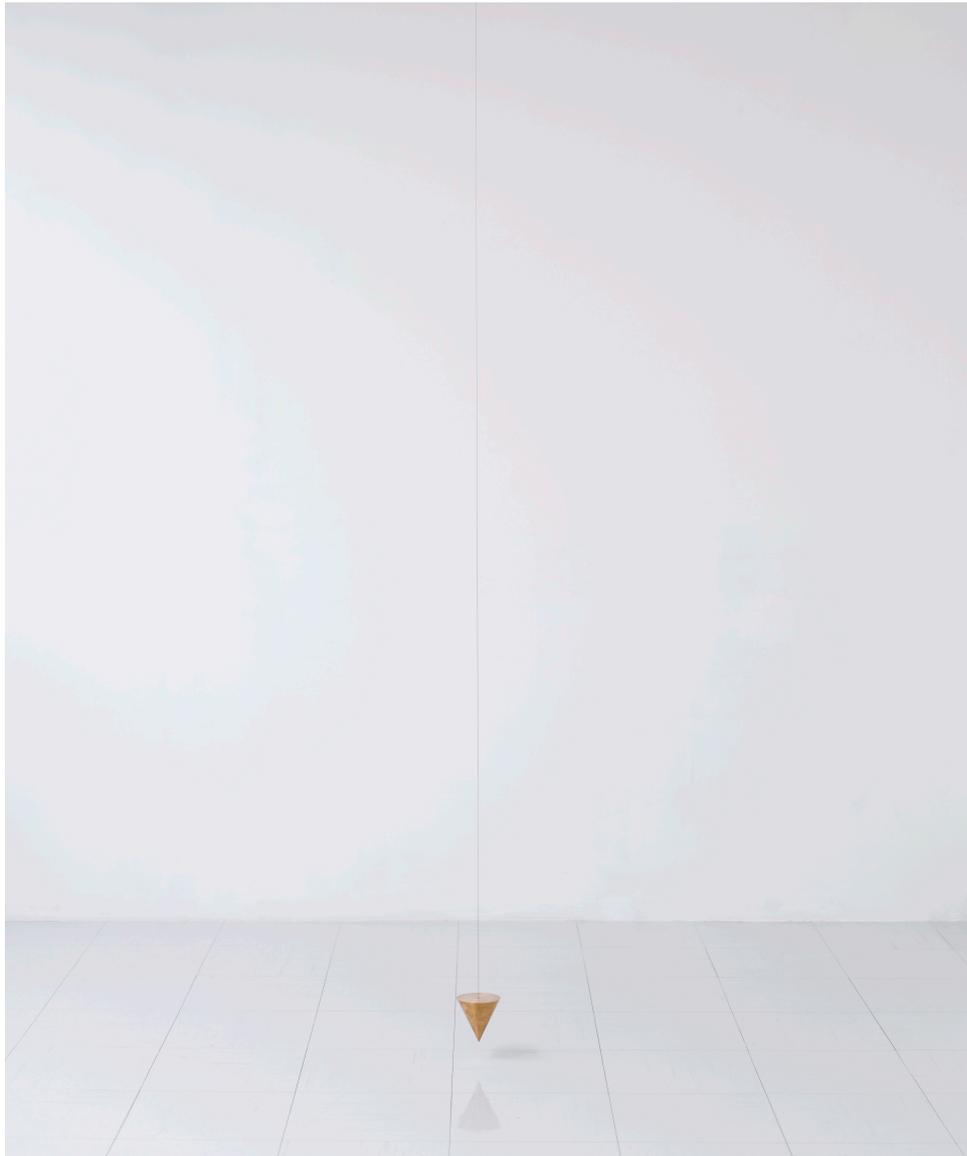
小清水漸は1944年愛媛県宇和島生まれ。1966年から1971年まで多摩美術大学彫刻科在籍。現在は京都と大阪を拠点に活動しています。1960年代後半から木、石、紙、土、鉄などを用い、素材間のかかわりを重視した作品を制作してきました。1970年前後の「もの派」の中心的アーティストであり、ベネチアやサンパウロのビエンナーレ展をはじめ国内外の展覧会で活躍しています。主な個展に「小清水漸展 彫刻・現代・風土」（岐阜県美術館、愛媛県立美術館、1992年）、小清水漸教授退任記念展「重力/質量/作業」（京都市立芸術大学芸大ギャラリー・大学会館ホール、2010年）があります。

本展で展示する〈垂線〉は、1969年に発表された真鍮の分銅をピアノ線で吊った作品です。小清水は、1968年にももの派の起点となる関根伸夫の〈位相—大地〉の制作に立ち会い、翌年、自らの制作の姿勢、思考の原点に立ち返った同作品を発表制作しました。ただひたすら床にある一点を指し示す分銅と、それを支える天井からの垂直線は、それぞれ、彫刻制作の原点と垂直軸を、目に見える形で表現するものです。また、本展では、2015年に制作された石を吊るした作品も展示いたします。

森田花氏は一柳慧コンテポラリー賞を最年少で受賞した作曲家です。2018年に弊ギャラリーで開催した一柳慧、近藤高弘による二人展『消滅』をきっかけとして、本展の企画が生まれました。今回の小清水とのコラボレーションでは、天井から吊るされた分銅と床の接点から始まる新たな「生成」を目指して、作曲とパフォーマンスを試みます。

垂直と水平の交差が、音楽と美術の新たな対話につながることを期待します。

\* パフォーマンスは3月13日（土）に招待制で行われます。16日（火）以降は、パフォーマンスの映像を上映し、音楽とともに小清水の作品をご鑑賞いただけます。



<垂線> (1969年) 真鍮、ピアノ線、8 x 8 x 高さ約 300 cm

東京画廊+BTAP プレス担当: 鈴木佳世  
e-mail: [info@tokyo-gallery.com](mailto:info@tokyo-gallery.com) / website: [www.tokyo-gallery.com](http://www.tokyo-gallery.com)

開廊時間 | (火-土) 11:00-17:00

東京画廊+BTAP | 東京  
〒104-0061 東京都中央区銀座 8-10-5 第4 秀和ビル 7階  
TEL: 03-3571-1808 / FAX: 03-3571-7689  
[www.tokyo-gallery.com](http://www.tokyo-gallery.com)